

## 共栄社

## 農機具から無人芝刈り機メーカー

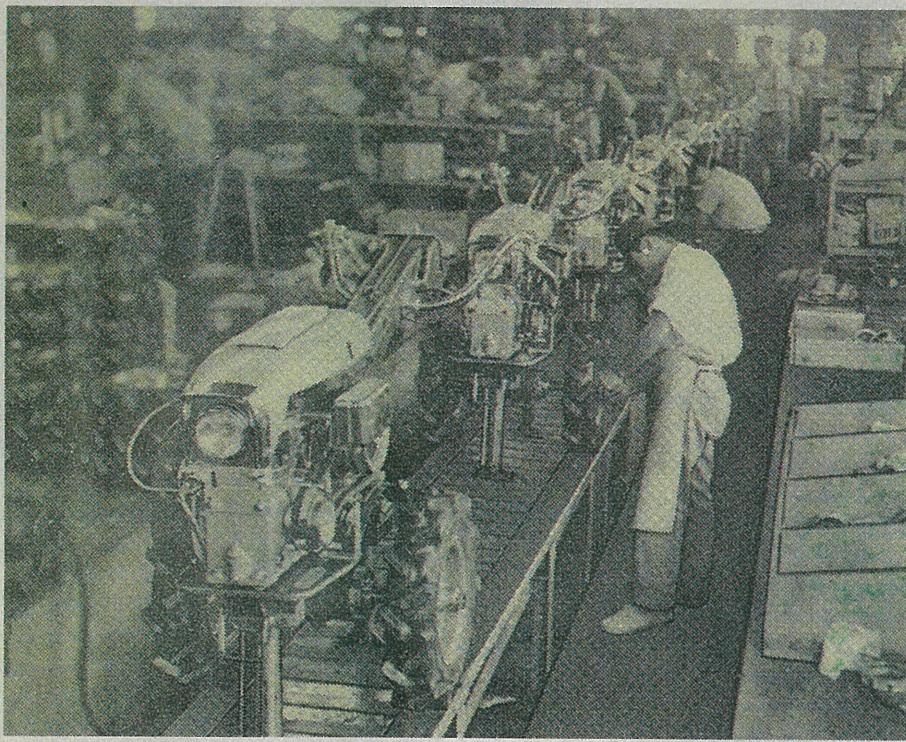
養蚕（ようさん）業向け機具から始まり、脱穀機や耕耘機などの農業関連機具メーカーに。ここから大転換して洋風の庭やゴルフ場の芝刈り機メーカー。そして次世代型となる無人芝刈り機の世界販売へ。創業1910年の共栄社（本社豊川市美幸町1の26、林秀訓社長）が大きな壁を乗り越え飛躍したのは、戦後もなく、進駐軍の生活様式にヒントがあったという。

（豊川・立松鉄洋）

初代社長の林總吉氏が養蚕業向け機具を開発したのが10年（明治43年）。ここから共栄社は始まった。それまでは苦しい生活だったが、養蚕業向け機具がヒット。豊川市内で初めて、自転車を購入した。新しい自転車に目を輝かせた

のが、のちに2代目社長となる林嘉一氏。ばらばらにしたり、組み立てたり。技術屋として成長し、需要が膨らみつつあった

生活だったが、養蚕業向け機具脱穀機、耕耘機を次々、市場投入した。既存の製品に満足せず、新しい製品分野に飛び込んで「新しい性格だったと聞いている」



耕運機の生産現場（昭和30年ごろ）

## 進駐軍の生活様式にヒント

# 変幻自在

### 老舗企業の挑戦

（林社長）。

ただ、脱穀機や耕耘機は全国的な大手企業が相次いで改良型製品を開発する。「大手と競つても勝ち目はない」と早くも次のターゲットを意識した。

45年に社長に就任。直後に見たのが進駐軍の生活様式。「これだっ」。一軒家の庭には芝生を張る。その芝を手入れするのが日課だ。そして休日に芝生が生えそろった場所でゴルフを楽しむ。「芝を適切に切



林秀訓社長

りそうえる芝刈り機が必要となるが時代が、間違いなく到来する。

農業関連機具で培った技術を生かすことができる。特に刃物の精度には自信があった。技術屋社長は独自技術で、どんな芝をもカットできる構造を開発した。この技術は75年たつ今でも世界に誇ることができるのである。

そして82年、林雅口氏が3代目社長（現在の会長）に就任。

## 刃物精度一貫した強み 世界シェア10%目標

刃物精度で培った技術を生かすことができる。特に刃物の精度には自信があった。技術屋社長は独自技術で、どんな芝をもカットできる構造を開発した。この技術は75年たつ今でも世界に誇ることができるのである。

昨年秋に試験販売を開始したゴルフ場向け無人芝刈り機を世界で本格販売する。芝を刈るという伝統技術と、ティーチング、さらにGPSを融合させ、一晩のうちに無人でゴルフ場のコースを整備できる。林社長は「ゴルフ場の芝刈り機の世界シェアは足元で4%前後。これを10%に引き上げるのが当面の目標だ」と話す。



今秋から本格販売するゴルフ場向け無人芝刈り機（ティーチング作業があるため人間向け座席がある）